



こども病院前の巴川の堤には菜の花が咲き始めました。病院の桜が咲くのももう少しです。

ある方の人生観について新聞に記事がありました。現代人の弱さは全てが自分の責任であるかのように考えて自分を追い詰めたり、逆に全てが周りの人の責任であると考えてる人もいます。人生にはうまくいかないことや失敗は多々あるもの。そうした困難に立ち向かう時、その原因を天に押し付ける。つまり、こうしたことになったのは天が私に試練を与えようとしているのだと考える。すると気が楽になり新たな策を講じる力が出てくるというのです。懸命に生きてもうまくいかないのは、天の配剤だと受け入れることが大切だといいます。天は必ずあなたを見てくれているということです。

辛い日々があっても、いつかあなたの心に桜の花が満開に咲き誇る日が訪れることでしょう。

▽ アンケート調査のお願い

同封をしましたアンケートは、国際医療福祉大学大学院で「院内親の会」の役割について研究をされている看護師の井上玲子さんからの依頼です。

著しい進歩を見せる小児がん医療の中で、「親の会」の役割、またそれに関わる看護師の役割について研究をしたいということです。お手数をおかけしますが、返信用の封筒も同封していますのでご協力をお願いします。

<第164回 ほほえみの会>

2人の参加でした。

<第165回 ほほえみの会>

堀越医師を含め4人の参加でした。

▽ 4歳男の子、髄芽腫。去年の秋に足元がふらつくようになり、保育園の先生からも指摘を受けて近くの小児科医院へ。問題はなさそうだが、念のため総合病院へ行ったほうがいいと言われ、総合病院へ。そこでCT、MRI検査をして異常がわかり、その日のうちにこども病院へ入院。

すぐに手術をして腫瘍を取り除き、現在抗がん剤治療に入った。後頭部の手術で現在まだ話しが出来ない状態、泣いたり笑ったりの表情はあるが話が出来ないのが辛い。また、これからの治療が予定通り進むか心配。

今後放射線治療もある。県立がんセンターで、全国に4箇所しかない陽子線照射ができるのでそちらを受ける予定。だがその副作用がないか心配。

1歳の妹がいる。会社が父親、母親ともに看護休暇をくれたので病院近くにアパートを借りて面会に通う。

神奈川に住む祖母が来てくれていて一緒に病気と闘ってくれるのでありがたい。夫婦の精神状態を心配してくれている。

▽ こども病院も新年度を迎えるにあたり、体制が変わります。

これまで血液腫瘍科を率いてきてくれた三間屋副院長が退職されます。三間屋先生は静岡県立こども病院開院以来、血液腫瘍の専門家として、また日本におけるエイズ研究、治療の第一人者として、「世界の三間屋」として活躍をされ、こども病院の地位を確立されました。「ほほえみの会」も先生の呼びかけで発足したもので、その功績は大きいものがあります。病院から去られることは寂しい限りですが、今後ますますのご活躍をお祈りします。長い間、ありがとうございました。

代わりに筑波大学小児科から血液腫瘍のスペシャリスト、工藤寿子医師が血液腫瘍科長として赴任します。外来は工藤、堀越、高嶋の各医師が担当します。また、野村医師が滋賀に帰ることになり、代わりに以前いた小倉妙美（旧姓奈良）医師が広島大学小児科から戻ってくれることになりました。阿部医師、坂口医師を含めた6名の新体制で、より強化発展をしていくということです。これからも宜しくお願いします。

次回 は 4月 12日(日) 11時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一 TEL054-247-9560

E-mailアドレス k_likeda@yahoo.co.jp

ホームページ <http://www.geocities.jp/hohoeminokai/>